

イウカさんの OLÁ, HIKONE!



(olá[オラ]=ポルトガル語で「こんにちは」)

第9回 パスコア(イースター)

彦根の皆さんこんにちは！イウカです。

時間が経つのは早いものですね。私が彦根に来てから、もう1年が過ぎました!! 新しい生活への不安な気持ち、そしてそれを越える彦根での生活への期待。そんな入り混じった気持ちを抱いて彦根駅を降りたのが、まるで昨日のように思えてきます。

私は、来年4月まで引き続き市の国際交流課に勤務することになりました。どうぞよろしくお祈りします。



さて、長く寒い冬がようやく終わり、新たな生命の息吹が聞こえる春がやって来ました。今年は暖冬だったそうですが、温かいところで育った私には彦根の冬はとて厳しく感じられたので、春の訪れが何よりもうれしいです。

◆キリスト教最大のお祭り、復活祭

日本の4月は、お花見の季節ですね。一方、ブラジルや西洋の国々では復活祭(イースター)の季節です。イースターはキリストの復活を祝うキリスト教最大のお祭りで、ポルトガル語では^{パスコア}Páscoa といいます。今回はこのパスコアのさまざまな習慣を紹介したいと思います。

イースターは本来はキリスト教とは関係ない他の宗教のお祭りで、自然の再生をお祝いするお祭りでした。それがキリスト教の受容に伴い、ユダヤ教のパスサヴァというお祭りとしだいに融合し、復活祭になったと考えられているそうです。

このパスコア=イースターは、春分の日の後、初めての満月の次の日曜日(ややこしいですね!)に行われます。だから、毎年同じ日に行われるわけではありません。今年のように3月下旬のこともありますし、4月中旬のこともあるのです。

◆子どもが復活祭を好きなわけ

さて、パスコアには子ども時代の楽しくてなつかしい思い出がいっぱいあります。学校や幼稚園では、パスコアが近づくとパーティをします。先生が楽しいお話をしてくださったり、衣装の準備をしたり、うさぎの絵を描いたり、歌を歌ったり...

パスコア当日の日曜日の楽しみは、うさぎが家のあちらこちらに隠した(ことになっている)卵の形をしたチョコレートやおもちゃを探すイースタ



ー・エッグ・ハントというゲームでした(もちろん、実際に隠したのはお母さんなのですが)、とてもたくさんチョコレートが見つかるんですよ。このゲーム以外にも、卵やうさぎをかたどったチョコレートをもらうので、パスコアの後には10日以上もチョコレートの食べ放題。こんなことは一年中でパスコアのときしかありません。そんなわけで、子どもにとってはとてもうれしい季節でした。

うさぎとイースター・エッグにはあまりにも密接な関係があるので、私などは、今から思うと笑ってしまいますが、10歳を過ぎるころまで「うさぎは卵から生まれるもの」と思い込んでいたほどです。

◆子どもだけのお祭りではありません

もちろん、宗教的な意味を別にしても、パスコアは子どもたちのためにだけあるものではありません。恋人たちはチョコレート・エッグを交換し、大人たちは長めの休暇を取り、その間に旅行することもあります。

日本では、聖バレンタイン・デーにいちばんチョコレートが売れるようすが、ブラジルでチョコレートがたくさん消費されるのは何と言ってもパスコアの季節です。

最近では、日本でもイースター・エッグを買うことができます。右の写真に写っているのは、今年彦根で買ったものです。



600gもある大きなイースター・エッグ

小さな子どもをお持ちの皆さん、ご家庭でイースター・エッグ・ハントをして、パスコアの雰囲気を感じてみてはいかがでしょうか？

^{フェリス} Feliz ^{パスコア} Pascoa!! (楽しいイースター=イースターのあいさつ)

ポルトガル語・最初の一步

ポルトガル語では日本語の「いただきます」や「おあがりなさい」にあたる表現はありませんが、食事の前にお互いに“^{ボン} Bom ^{アペチテ} Apetite”と言います。おいしいは^{ゴストーゾ} Gostoso! または^{デリシオーゾ} Delicioso! と言います。料理がおいしいと思ったらこう言ってください。ごちそうしてくれた人や、料理を作ってくれた人はとても喜んでくれますよ!!

それでは皆さん、^{チャウ} Tchou, até o mês que vem! (さよなら、また来月)

(彦根市国際交流員 ^{じょうこう} 上甲イウカ)